

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当時間数
				職種	役職		
老年看護学概論 I (対象の理解)	1	1	後期	看護師	本校専任教員	専任教員	15
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
該当する ○ 該当しない				講義形式( 20 )% ・ 実習など講義形式以外( 80 )%			
評価方法	試験 学修意欲 レポート			教科書・参考資料	老年看護学:医学書院		
概要	老年看護の対象となる人々の生理的、心理的、社会的特徴及び老年看護の特質について理解する。						
目標	1. 高齢者を身体的・心理的・社会的側面から理解できる 2. 加齢に伴う健康問題を理解できる 3. 高齢者のQOLと看護の役割を理解できる						
回数	授業内容・計画						
1	第1章 老いるということ、老いを生きるということ		A 老年看護を学ぶ入り口				
2	B 「老いる」ということ ①加齢と老化 ②身体的側面の変化 ③心理的側面の変化 ④社会的側面の変化 C 老いを生きるということ ①老年期とは ②老年期の発達課題 ③老いを生きる人々へのまなざし						
3～6	第4章 高齢者のヘルスアセスメント		B 身体に加齢的变化(構造と機能の変化) ①皮膚とその付属器 ②視聴覚とその他の感覚 ③循環器 ④呼吸器 ⑤消化・吸収 ⑥ホルモンの分泌 ⑦泌尿生殖器と性 ⑧運動器 上記の内容をグループ学習し発表				
7	高齢者体験学習		グループ発表内容を理解し実際に高齢者体験をする レポートで振り返り提出				
8	終講試験						
留意事項							

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当 時間数
				職種	役職		
老年看護学概論Ⅱ (老年保健)	1	2	前期	看護師 理学療法士 作業療法士	本校副校長 リハビリテーション部副部長 リハビリテーション部課長	副校長 非常勤講師 非常勤講師	20 2 8
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
○該当する ・ 該当しない				講義形式( 100 )% ・ 実習など講義形式以外( )%			
評価 方法	試験 学修意欲 レポート			教科書・ 参考資料	老年看護学:医学書院 国民衛生の動向 リハビリテーション看護:医学書院		
概要	社会構造の変化や人口の高齢化に伴う保健・医療・福祉の問題に対する理解を深め、老年看護の役割について考える。老年患者の行動に影響を及ぼす因子及び因子間の相互関係を理解するための能力を養う。						
目標	1. わが国の人口高齢化の特徴と高齢者に対するソーシャルサポートシステムが理解できる 2. 高齢者の人権と倫理に関する問題について理解できる 3. 老年看護の基本的考え方が理解できる 4. リハビリテーションの理念が理解できる						
回数	授業内容・計画						
1	老年看護学 第2章 超高齢社会と社会保障 A 超高齢社会の統計的輪郭 ①超高齢社会の現況 ②高齢者と家族						
2	③高齢者の健康状態 ④高齢者の死亡						
3	⑤高齢者の暮らし						
4	B 高齢社会における保健医療福祉の動向						
5	①高齢者にかかわる保健医療福祉システムの構築						
6	②高齢者を支える多職種連携と看護活動						
7	C 高齢者の権利擁護						
8	①高齢者に対するスティグマと差別 ②高齢者虐待						
9	③身体拘束						
10	④権利擁護のための制度						
11	第3章 老年看護のなりたち A 老年看護のなりたち B 老年看護の役割						
12	C 老年看護における理論・概念の活用 D 老年看護に携わる者の責務						
13	リハビリテーション看護 第1章 リハビリテーション概論 A リハビリテーションの定義と理念 B リハビリテーションの対象と制度						
14	C 疾病・障害・生活機能の分類						
15	D リハビリテーションの分野 E リハビリテーション医療の提供						
16	第2章 リハビリテーション看護概論 A リハビリテーション看護の定義と専門化						
17	B リハビリテーション看護の対象						
18	C リハビリテーション看護の方法						
19	終講試験						
留意事項							

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当時間数
				職種	役職		
老年看護学援助論 I (高齢者と家族、老年看護の基本技術)	1	2	前期	看護師	津山中央病院 臨床指導者	非常勤講師	30
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
○該当する ・ 該当しない				講義形式( 100 )% ・ 実習など講義形式以外( )%			
評価方法	試験 学修意欲 レポート			教科書・ 参考資料	老年看護学:医学書院		
概要	高齢者に多い疾病の発病・回復過程を理解し、老年期にある人と共に生きる家族の健康生活サポート・システムを知り、更なる健康生活を目指した実現可能なサポートシステムの構築を考える力を養い、専門職者としての看護倫理を踏まえた老年看護を实践できる能力を養う。ライフステージの最後の「死」についても考える。						
目標	1. 高齢者におこる身体・心理・社会的変化を基本に、援助技術を考えることができる 2. 高齢者の認識している世界と援助者の認識している世界が一致しないことが多いことが理解できる						
回数	授業内容・計画						
1	5章 高齢者の生活機能を整える看護 A 日常生活を支える基本的活動 ①基本動作と環境のアセスメントと看護						
2	②転倒のアセスメントと看護						
3	③廃用症候群のアセスメントと看護						
4	B食事、食生活 ①高齢者における食生活の意義 ②高齢者に特徴的な変調						
5	③食生活のアセスメント ④食生活の支援						
6	C排泄 ①高齢者の排泄ケアの基本 ②排尿障害のケアとアセスメント						
7	③排便障害のアセスメント						
8	Gセクシュアリティ ①高齢者におけるセクシュアリティ						
	②高齢者ケアの場における性に関する問題						
	③セクシュアリティのアセスメントと看護						
9	E生活リズム ①高齢者と生活リズム ②生活リズムのアセスメント ③生活リズムを整える看護						
10	Fコミュニケーション						
11	8章 エンドオブライフケア A エンドオブライフケアの概念						
12	B 「生きる」ことを支えるケア						
13	C 意思決定への支援						
14	D 末期段階に求められる援助						
15	終講試験						
留意事項							

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当 時間数
				職種	役職		
老年看護学援助論Ⅱ (主な疾患と看護)	1	2	後期	看護師 看護師 看護師	津山中央記念病院師長 津山中央病院 師長 認定看護師	非常勤講師2名 非常勤講師 非常勤講師	16 10 4
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
○該当する ・ 該当しない				講義形式( 100 )% ・ 実習など講義形式以外( )%			
評価 方法	試験 学修意欲 レポート			教科書・ 参考資料	老年看護学:医学書院		
概要	高齢者の在宅・医療・保健・福祉施設など各種ケア場面のあらゆる健康状態にある高齢者を全人的に理解し、対象の心身の状態、生活体験や生活背景、日常生活行動、環境からの健康上のニーズを総合的にアセスメントできる能力を養う。 高齢者特有の症状の現れ方や罹患しやすい疾患とフィジカルアセスメント、及びQOLを高めるアセスメントを理解する。						
目標	1. 看護の展開を行う上での高齢者の特徴が理解できる 2. 高齢者の入院、検査、治療、退院における援助を理解できる 3. 高齢者の主な疾患と看護について理解できる						
回数	授業内容・計画						
1	4章 高齢者のヘルスアセスメント A ヘルスアセスメントの基本 B 身体に加齢変化とアセスメント ①皮膚とその付属器 ②視聴覚とその他の感覚 ③循環器 ④呼吸器 ⑤消化器 ⑥ホルモンの分泌 ⑦泌尿生殖器						
2~4	6章 健康逸脱からの回復を促す看護 A 症候のアセスメントと看護 ①発熱 ②痛み ③掻痒 ④脱水 ⑤嘔吐 ⑥浮腫 ⑦倦怠感						
5	B 疾患を持つ高齢者への看護						
6	①脳卒中 ②心不全 ④慢性閉塞性肺疾患 ⑤がん ⑦インフルエンザ ⑧肺炎						
7	7章 治療を必要とする高齢者の看護						
8・9	4章 B身体に加齢変化とアセスメント ⑧運動器						
10	6章 健康逸脱から回復と終末期を支える看護の展開 B 疾患を持つ高齢者への看護 ⑥パーキンソン病・パーキンソン ⑨骨粗鬆症 ⑩骨折						
	C 認知機能の障害に対する看護 ①うつ ②せん妄						
11	9章 生活・療養の場における看護 A 高齢者とヘルスプロモーション						
12	B 保健医療福祉施設および居住施設における看護 C 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護 D 多職種連携実践による活動						
13・14	6章 健康逸脱から回復と終末期を支える看護の展開 C 認知機能の障害に対する看護 ③認知症						
15	終講試験						
留意事項							